



# 白川村文化遺産活用観光マネジメント事業

(平成23年7月～平成25年3月)

## 1 計画の概要・実施体制

白川村では白川村民謡連絡協議会、白川村獅子舞連絡協議会等芸能継承団体を中心に「白川村文化遺産活用観光マネジメント事業実行委員会」を立ち上げ事業を検討実施しています。

地域の文化遺産普及啓発事業では県重要文化財指定建造物9棟を含む全25棟の合掌造り建造物群の保存公開を行う白川郷合掌造り民家園を会場に、白川村をはじめ飛騨・美濃地方に継承される「踊り」をテーマとした伝統芸能が一堂に介し競演するフェスティバルを開催します。併せて、観光客の拡大と情報発信性を高めるため、地域の伝統芸能に加え、人気歌舞伎俳優による話題性の高い歌舞伎舞踊の公演を行い、白川村ならびに周辺エリアの有形・無形の文化遺産の魅力を全国に発信します。

また、イベント開催とともに白川村の伝統芸能の後継者育成のための継承活動をより活発化するため、村内に継承される白川民謡や獅子舞等の伝統芸能保存会会員等を対象にした継承活動を3カ年にわたり実施します。

地域の文化遺産記録作成、調査研究事業では、「白川村観光基本計画」の策定を行います。白川村では平成22年に世界遺産の保存管理を目的とした、「世界遺産マスタープラン」を策定しました。その中で、遺産の価値を正しく理解してもらうための観光の質の向上などが課題として挙げられました。また、世界遺産以外にも、前述の伝統芸能のような数多くの文化資源が眠っていますので、それらの価値を総合的に把握し、村全体の周遊観光に結びつけるようなストーリー／ルート設計を行うことが必要とされています。平成23年度は観光計画の策定に必要な、文化遺産を目的とした観光客の動態やニーズなどを把握するための調査を行います。

## 2 補助事業名

・白川村文化遺産活用観光マネジメント事業

## 3 補助事業者名

・白川村文化遺産活用観光マネジメント事業実行委員会

## 4 計画に基づく補助事業の目的・内容

### ①地域の文化遺産普及啓発事業

白川村には地域毎に民謡が継承されており、全ての地域で曲調や踊り方が違います。それらの民謡は5つの保存会が中心となり地域性を残した形で継承を続け活動しています。しかし各保存会の抱える共通の課題は後継者育成です。各保存会とも世代交代の時期を迎えており、後継者を育成するためのイベントが求められていました。そこで、白川村では今回の事業を活用して後継者育

成と各保存会の活性化を目的に「白川村踊り街道フェスティバル」を行いました。

フェスティバルは平成23年10月23日に行い、白川村を中心にした伝統芸能の上演、村内各地区の民謡保存会による白川民謡、ゲストとして白川村近隣の郡上踊り（郡上市）、こきりこ節（南砺市）、おはら風の盆（越中八尾）を招聘し「踊り」をテーマに各地域の連携を街道としてPRできる構成としました。



越中おわら風の盆

さらにメインゲストとして歌舞伎役者片岡孝太郎氏を迎え、民衆の踊りをもとに舞台芸術として昇華した歌舞伎舞踊の上演を行いました。

イベント全体の解説には芸能学会会長三隅治雄先生を招聘し、それぞれの民謡の解説や、片岡孝太郎氏との対談をしていただきました。



隅先生と片岡孝太郎氏の講演会

### ②地域の文化遺産継承事業

今回のイベントに合わせて各民謡保存会毎に伝統芸能継承者の養成を目的に講習会を開催していただきました。期間は平成23年9月10日から平成23年10月23日までの間で各団体2時間を5回行っていただきそれぞれの保存会の後継者を対象に踊りの振り付けや、歌い手、囃子方の三味線や尺八などの指導をしていただきました。

### ③地域の文化遺産記録作成、調査研究

文化遺産を目的とした観光客の動態やニーズを把握する目的で観光客アンケート調査を日帰り客（平成23年9月12日～9月16日、10月4日）と宿泊客（平成23年10月

24日～12月24日) 別に実施しました。

併せて白川村における観光の取り組みや、現状の課題を明らかにするために、白川郷観光協会、白川郷荻町集落の自然環境を守る会、白川村商工会、(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団などの関連団体へのヒアリング調査(平成23年9月13日～15日)を実施しました。

また、「白川村観光基本計画」策定にむけた会議を開催し、基礎調査の分析を基本として基本計画の素案を作成し具体的な施策の検討も行いました。

## 5 計画の実施の効果

### ①地域の文化遺産普及啓発事業

今回の「白川村踊り街道フェスティバル」の開催により地域の伝統芸能や近隣の多様な民謡の特性を全国に発信することができ、朝日新聞に大きく取り上げられたことで動員数700人を数え白川村の民謡を広くアピールすることができました。

また総合監修の三隅治雄先生の解説により白川村を中心とした近隣の多種多様な伝統芸能を客観的に解説いただき、飛騨・美濃・越中の民謡の魅力を十分にお伝えし国民の関心を得ることもできました。今回のイベントのように白川村の全保存会が集って講演を行うこと自体が初めての試みであったので、村外からの動員とおなじく村民の関心も高く、多くの村民の方に白川村の芸能を1日通して各保存会の民謡を見比べていただくことで各地域での踊り方の違いや曲調の違いなどをあらためて感じていただきその多様性こそが白川村の芸能の価値であるということをお伝えすることができました。



荻町獅子舞保存会の公演



白川民謡の共演

歌舞伎舞踊の公演を片岡孝太郎氏による出演により地域の各民謡保存会も同じ舞台上で演ずることができ今後の芸能活動にさらなる活力が生まれました。



片岡孝太郎「藤娘」公演

日頃から村内の各保存会では後継者育成の機会としてイベントの開催の必要性が叫ばれており、今回のフェスティバルは大変良い機会となりました。併せて行った伝統芸能継承者の養成事業も大変効果的に機能し、中でも世界遺産集落である荻町集落の民謡保存会は今年度メンバーが若返り、育成に大変力が入っていました。

現在白川村では小中一貫教育を進めていますが、今回の一連の事業を経験して保存会では各地域毎に民謡を伝えていく重要性を再認識され小学校、中学校に向いて各地域で分担して、県指定無形民俗文化財である「こだいじん」を子供たちに伝える活動を始め、子供たちの踊りは平成24年の運動会で披露されることになっています。

このことは今回の事業による一番の効果であると言えます、イベントを通じて地域の各伝統芸能保存会の活動が活発化し、各保存会どうしの交流が図られ、学校教育の中の地域教育に参画いただくまでに盛り上がったことは大変良かったと思っています。今の後継者の次の世代は中学生、小学生ということを見据えていけば、今後の後継者育成により大きな力となると信じております。

## 6 今後の予定

平成23年度に引き続き平成24年度も「白川村踊り街道フェスティバル」を開催します。平成24年度は会場を世界遺産集落内の中心の広場に移し、「獅子舞」にスポットを当てたイベントを計画しています。



# 掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業

(平成23年7月～平成25年3月)

## 1 計画の概要・実施体制

掛川市は、静岡県の西部に位置します。重要文化財「掛川城御殿」をはじめとする国、県、市の指定建造物24件、国史跡横須賀城跡を初めとする国、県、市の指定史跡14件等、文化財が多く残されています。

江戸時代には掛川城、横須賀城の城下町、藩政の中心として栄えました。また、市内を東西に貫く東海道には、掛川宿と日坂宿が置かれ、行き交う旅人で賑わいました。このような土壌から生まれた民俗芸能や産業は、現在も市内で受け継がれています。さらに、国内唯一の伝統工芸の「葛布」や茶産地ならではの茶文化が受け継がれています。

掛川市は、歴史的資産を次世代に引き継ぐべく、歴史的建造物の復元整備等を進め、掛川城周辺は数々の歴史的建造物が立ち並ぶ「歴史文化ゾーン」として整備を進めてきました。

一方、伝統文化・伝統工芸においては、従事者の減少、後継者の確保困難等による技術の継承等の課題があり、次世代に受け継ぐ体制づくりが求められています。

そこで、種々の事業を総合的に実施することにより、郷土意識の醸成とまちづくりに活かすとともに、地域のかげがえのない資産として後世に伝えるため、「掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業」と「掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業」を計画しました。

実施体制は、下記の(ア)から(カ)までの6事業を「掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業」として実施し、平成23年度は掛川市生涯学習まちづくり課がとりまとめを行いました。下記の(キ)については、「掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業」の中で実施し、平成23年度は商業労政観光課がとりまとめを行いました。

### 実施事業

- (ア) 将棋によるまちづくり事業
- (イ) 三社祭礼囃子保存・継承事業
- (ウ) 葛のあるくらし体験講座事業
- (エ) 「掛川祭」お囃子、長唄、端唄、手踊り文化継承・シンポジウム日本の響き富栄寿多事業
- (オ) 掛川お茶の日2周年記念市民茶会事業
- (カ) 掛川市無形民俗記録作成事業
- (キ) 掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業

## 2 補助事業者名

- ①掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業

- ②掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業

## 3 補助事業者名

- ①掛川市文化観光地域活性化実行委員会
- ②掛川観光協会掛川支部

## 4 計画に基づく補助事業の目的・内容

### ①掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業

- (ア) 将棋によるまちづくり事業は、会場となる掛川城周辺の歴史文化ゾーン施設を全国に情報発信するとともに、日本の伝統文化である将棋を掛川市に根づかせ、将棋の普及・推進を図ることを目的に実施しました。

内容としては、掛川市は平成21年度から掛川城内の二の丸茶室を会場に、王将戦公式対局を招致、開催しており、平成23年度も二の丸茶室にて第61期将棋王将戦第一局を平成24年1月に行い、国重要文化財旧遠江国報徳社公会堂（大日本報徳社大講堂）を会場に大盤解説会を開催しました。それに合わせて、市立中央図書館を会場に、日本将棋連盟からプロ棋士3名を招き、小中高生を対象とした「指導対局会」、一般対象の「将棋講座」を開催しました。「指導対局会」には43名、「将棋講座」には50名の参加がありました。



将棋によるまちづくり事業 プロ棋士との指導対局



将棋によるまちづくり事業 プロ棋士による将棋講座

(イ) 三社祭礼囃子保存・伝承事業は、掛川市横須賀地区に300年余り伝承されている祭り囃子「三社祭礼囃子」のお囃子と「おかめ・ひょっこ」の実技を指導し、郷土芸能文化の尊重と健全な精神、豊かな人間性を醸成することを目的に実施しました。

内容として、三社祭礼囃子保存会が、市内の児童で構成される「三社ばやしクラブ」を対象に三社祭礼囃子教室を18回開催し、技術・演技指導を行いました。延べ594名の参加がありました。また、発表事業として、平成23年9月、磐田市立福田公民館で開催された「小京都・小江戸のまつり」シンポジウムにクラブ員33名が参加し、日頃の練習の成果を披露しました。平成24年1月にも、大須賀中央公民館で開催された「フェスタおおすか」にも44名で参加し、日頃の練習の成果を披露しました。



三社祭礼囃子保存・継承事業 フェスタ大須賀での発表

(ウ) 葛のある暮らし体験講座事業は、昭和50年頃まで掛川市の工芸品として盛んに生産されていた葛布が、産業の衰退とともに忘れ去られてしまう、との危機感から、葛布が郷土工芸品であることを多くの市民に再認識していただくことを目的に実施しました。

内容としては、平成23年7月、葛の蔓を採取して葛苧をつくる葛苧づくり体験講座を開催し、延べ55名が参加しました。平成23年11月には、掛川市生涯学習センターで行われた消費生活展で来場者100名に葛湯を試食していただき、葛の有効性をアピール



葛のある暮らし体験講座事業 葛苧づくり体験

することができました。平成24年3月、葛に関連した歴史的資料や会の活動報告と会員の葛の作品を展示する「葛のある暮らし展示会」を掛川市指定有形文化財である竹の丸で開催し、延べ200名の入場者がありました。

(エ) 「掛川祭」お囃子、長唄、端唄、手踊り文化継承・保存シンポジウム日本の響き富栄寿多は、①多くの市民が、お囃子、長唄、端唄、手踊り等を中心とした掛川固有の民俗芸能を、かけがえのない「地域資源」として知ること。②「地域資源」であるそれらの民俗芸能を、今後も伝承していく「担い手」の育成を行うこと。③「地域資源の担い手」を活かした特色あるまちづくりに向けての仕組みづくりと、それに伴う地域の様々な分野・様式・形態・業態・組織・環境などとの交流・連携・連帯・共存を図ること、の3点を目的に実施しました。

内容は2部構成で、平成23年9月、第1部として竹の丸において、掛川祭りのお囃子、長唄、端唄、手踊りについて紹介と解説、パネルディスカッションを行い、52名が参加しました。同月、第2部として掛川市生涯学習センターにおいて、プロの長唄演奏家等を招き「日本のひびき ふるさとの響 掛川祭」を開催し、プロの演奏家に合わせ、地域に伝わるお囃子、長唄、端唄手踊りの実演を行い、700名の入場者がありました。



「掛川祭」お囃子、長唄、端唄、手踊り文化継承・保存シンポジウム 日本の響き富栄寿多 プロの長唄演奏家のもと地域に伝わるお囃子、長唄、端唄、手踊りの披露

(オ) 掛川お茶の日二周年記念市民茶会事業は、11月8日が「掛川お茶の日」と定められたことを記念し、茶道文化の普及・継承と会場である国重要文化財「掛川城御殿」のPRを目的に実施しました。

内容として、掛川地区は平成23年10月、掛川城御殿で市内の茶道の6流派が市民茶会を開催し、301名の方にお手前を披露しました。大須賀地区では、同年11月、地区の茶道4社中が、大須賀中央公民館を会場として市民茶会を開催し、250名の方にお手前を披露しました。



掛川お茶の日二周年記念事業市民茶会  
掛川城御殿での市民茶会



掛川お茶の日二周年記念事業市民茶会  
大須賀中央公民館での市民茶会

(カ) 掛川市無形民俗記録作成事業は、近年、地縁社会の崩壊や少子化により無形民俗文化財の内容等に変化が生じ始め、存続が危惧される状況にあることから、現在の状況、過去の形態等を記録に残し、後世に伝えることを目的に実施しました。

内容として、子どもたちにより行われる「送り神」行事について調査しました。その結果、現在23箇所で行われており、廃れてしまったものが11箇所あることが判明し、その成果を『子どもたちによる「送り神」行事』として冊子にまとめ、市内をはじめとする県内の図書館、市町等に配布しました。

## ②掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業

(キ) 既存文化資源等への観光需要が低迷する現状をふまえて、掛川の報徳思想や生涯学習、スローライフ等の精神文化をよりどころとした、市独自の観光スタイル「交流型ツーリズム」の確立、内外への発信を目的として事業を展開しています。

平成23年度は、文化遺産が集積する中心市街地の歴史文化ゾーンにおいて、関連する文化施設運営機関や文化活動を行う12の各種団体等への資源活用状況の聴取と意見交換を3回実施しました。また、5名の観光政策関係者、マスメディア等の方々に、交流型ツーリズムの核となる施設見学やキーマンによる解説等を体験していただき、交流型ツーリズムの考え方、今後の具体的取り組み等について提案いただくモニター調査を1回実施しました。そして、これらの調査に基づき「交流型ツーリズム推進計画案」を作成しました。



掛川市無形民俗記録作成事業  
子どもたちによる「送り神」行事



交流型ツーリズム事業  
交流型ツーリズムモニター調査1



交流型ツーリズム事業  
交流型ツーリズムモニター調査2

## 5 計画の実施の効果

将棋によるまちづくり事業、葛のあるくらし体験講座事業、掛川お茶の日二周年記念市民茶会事業は、市を代表する建物を使用した事業であり、地域の文化遺産の活用に寄与しました。特に、将棋によるまちづくり事業は、第61期王将戦第一局であり、報道機関により全国的に情報発信がなされ、国内での認知度を向上させることができました。また、掛川市は「将棋のまち」として全国的に印象づけられつつあります。

三社祭礼囃子保存・伝承事業は、地域の文化遺産の継承に必要な、大人から子どもへの専門的知識・技術の伝授が図られ、知識・技術等を継承することができました。

葛のあるくらし体験講座事業は、葛布産業が衰退する中、掛川市の伝統工芸である葛布とその原料である葛について、市民にアピールできました。「掛川祭」お囃子、長唄、端唄、手踊り文化継承・保存シンポジウム日本の響き富栄寿多は、今まで掛川祭の単なる余興と考えられていたものが、地域の伝統ある文化遺産であることが市民に理解されるとともに、市民の関心が高まりました。

掛川市無形民俗記録作成事業は、地域に伝わる行事の現在の形態を記録することにより、現時点での形態を把握できる資料となるとともに、過去の方法等を記録することにより、本来の形態を考察する資料とすることができました。さらに、廃れてしまった行事も記録することにより、後世に伝えることができる貴重な資料となりました。

交流型ツーリズム事業については、計画作成のための調査、研究が初年度の主たる事業内容となったため、具体的な効果を見るに至っておりません。

しかし、推進計画案が作成され、実行されることにより、従来の観光産業に限らず、あらゆる産業において新たな価値創造による、新たな需要の掘り起こしが期待されます。また、地域づくり等に関わる市民が、自らの活動や暮らしそのものへの共感を目的とした人々との交流

により、自己への誇り、自信を深めるとともに、新たな気づきや学びの獲得が期待されます。さらに、地域アイデンティティー、掛川イズムに触れることのできる観光スタイルを、掛川ブランドとして市内外に印象づけることが期待されます。

## 6 今後の予定

掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業では、掛川の伝統文化である三社祭礼囃子や伝統工芸である葛布に係る知識・技術等の保存と継承を図り、歴史と文化に根ざした無形民俗文化財については記録作成を行い、茶文化の普及を図るための掛川お茶の日記念の市民茶会を開催します。そして、将棋によるまちづくり事業を実施して、より一層、掛川での将棋の普及・推進を図ります。さらに、平成24年度からは、日本の伝統文化である百人一首等を通じて、日本語の美しさ、マナーの大切さ等を子どもたちに伝えるための「わくわく教室」を歴史的建造物で実施します。

掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業では、交流型ツーリズム推進計画に基づく基盤整備と主として市民に向けた交流型ツーリズム啓発活動を行います。



## 1 計画の概要・実施体制

我が国の中央に位置する本県は、豊かな自然と優れた文化遺産を有するとともに、モノづくりを資源とした魅力ある観光資源が多数存在しています。こうした観光資源を活用し、本県の魅力を向上させるためには、まず、県民一人ひとりが、観光に対する理解を深めるとともに、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた、地域社会を実現することが大切です。

地域の伝統的・特徴的な祭りや文化財を幅広く取り上げ、観光資源として有効活用の方策を検討することや、先進的な交通機関である「リニモ」の産業観光資源としての利活用を促進することにより多くの方に文化遺産に関わっていただけるよう計画を展開していきます。

また、「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」(平成23年6月策定)においては、地域の伝統芸能に子どもたちが身近に触れる機会を設けることや、弥生時代の遺跡から出土した資料をもとにした体験学習講座の開催等が盛り込まれており、さらに今後は、歴史的建造物や町並みの保存等に向けた取組を市町村と連携して進めていく予定です。

本事業については愛知県が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行っています。

### 主な担当課、役割

教育委員会生涯学習課文化財保護室

文化財の取扱等及び「(2) 補助事業名」における①②⑥に関する指導・調整等

地域振興部地域政策課山村振興室

「(2) 補助事業名」における③に関する指導・調整等  
県民生活部文化芸術課

「(2) 補助事業名」における④、⑤に関する指導・調整等

また、事業の実施については、次の団体が実施。

- ・あいちヘリテージマネージャー養成講座実行委員会(委員長 佐藤東亜男)  
「(2) 補助事業名」における①の事業を実施  
構成団体等(公益社団法人愛知建築士会、愛知県教育委員会、有識者)
- ・愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会(代表 長谷川良夫)  
「(2) 補助事業名」における②の事業を実施  
構成団体等(愛知県国登録有形文化財建造物所有者、愛知県教育委員会、有識者)
- ・花祭の未来を考える実行委員会(会長 佐々木重洋)  
「(2) 補助事業名」における③の事業を実施  
構成団体(愛知県、設楽町教育委員会、東栄町教育

委員会、豊根村教育委員会、北設楽花祭保存会、名古屋大学)

- ・愛知県鑑賞学習普及事業実行委員会(代表者 村田真宏)

「(4) 補助事業名」における④の事業を実施)

構成団体(愛知県美術館、県内大学機関)

- ・リニモ沿線ミュージアムウィーク開催実行委員会(会長 上田信子)

「(4) 補助事業名」における⑤の事業を実施)

構成団体(愛・地球博記念館、愛知県陶磁資料館、愛知県立芸術大学芸術資料館、トヨタ博物館、長久手市教育委員会、名都美術館、中日新聞社)

## 2 補助事業名

- ①あいちヘリテージマネージャー養成講座
- ②愛知県内登録有形文化財の保存・活用促進にむけた文化財建造物所有者と県民との連携事業
- ③花祭の保存・伝承による地域活性化事業
- ④リニモ沿線ミュージアムウィーク
- ⑤愛知県鑑賞学習普及事業「子どもたち・教員・学生・学芸員を結ぶ～愛知県美術館鑑賞プログラムを通して」
- ⑥朝日遺跡再整理活用事業

## 3 補助事業者名

- ①あいちヘリテージマネージャー養成講座実行委員会
- ②愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
- ③花祭の未来を考える実行委員会
- ④リニモ沿線ミュージアムウィーク開催実行委員会
- ⑤愛知県鑑賞学習普及事業実行委員会
- ⑥愛知県

## 4 計画に基づく補助事業の目的・内容

### ①あいちヘリテージマネージャー養成講座

愛知県内に多数存在する文化財建造物については、文化財として保存するとともにその活用を図ることにより、県民の文化的向上に資することが求められています。

そのため、あいちヘリテージマネージャー養成講座は、こうした文化財建造物を活かしていくために、文化財建造物の所有者に対して保存や活用に向けた助言を行うこと、また、県内で未だ登録されていない文化財建造物を発見して、国の登録有形文化財建造物としての登録を目指すこと、更には、文化財建造物に関する資料作成等に協力できることなどの能力を持った人材を養成しようとするものです。

あいちヘリテージマネージャー養成講座は、文化庁

の文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）を得て、平成23年度に開講し、2年間にまたがって実施しております。1年目は基礎講座編として8日間、2年目に発展講座編として7日間の講座を実施し、平成24年の10月には第一期生の修了式を予定しています。平成24年度には引き続き第二期生の募集も行っており、最終的には第三期生まで、総数で100名程度のヘリテージマネージャーを養成したいと考えています。全ての講座の受講修了者には修了証を交付し、希望者には（公社）愛知建築士会へ登録をして頂く予定をしています。

今後は、養成講座修了者（登録者）を中心にしたネットワーク化を図り、組織的な活動のできる体制づくりを進めるとともに、「愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会」（以下愛知登文会）との交流や、所有者の希望により維持管理のための診断業務を行うなどの活動業務についても検討を進めてまいりたいと考えています。



あいちヘリテージマネージャー養成講座  
明治村 西園寺公望別邸茶室 見学

## ②愛知県内登録有形文化財の保存・活用促進にむけた文化財建造物所有者と県民との連携事業

平成23年6月に設立した愛知登文会の会員拡大を図るとともに、活動自身が情報発信コンテンツになることで、県民の文化的資質の向上を図り、建造物の保存・活用を促進していきます。その結果、文化振興はもとより、観光振興・地域活性化などを図ることを目的としています。

以下の3つのプロジェクトと7つの事業を実施しました。

### ① 文化財所有者プロジェクト

#### ○所有者アンケート調査事業

登録文化財建造物所有者を対象に、建造物の用途と利用状況・公開状況・維持管理・広報等についての把握を行いました。

#### ○文化財建造物保存・活用講座事業

所有者の文化財建造物に対する学習・情報交換の場として全7回の講座を開催しました。うち、現地視察を県内で2回、県外（関西・関東）で2

回実施しました。

#### ○文化財建造物保存・活用シンポジウム

関西と関東からそれぞれ講師を招き、保存・活用講座の集大成として開催しました。

#### ○「愛知登文会」情報発信事業

所有者や県民へのPRを図るため、活動報告や予定などを掲載した「愛知登文会ニュース」を2回発行し、ホームページも立ち上げました。

### ② 文化財こどもプロジェクト

#### ○こども文化財体験事業

子どもを対象に、文化財建造物を訪問して所有者や専門家からの解説と陶磁器絵付・茶道・書道の文化体験をセットにした事業を計3回実施しました。

### ③ 観光ボランティアガイド連携プロジェクト

#### ○ガイド教材の作成

ボランティアガイドの方を対象とする見学講習のための教材を作成しました。

#### ○観光ボランティアガイド育成事業

ボランティアガイドを対象に、文化財建造物の価値・魅力を知ってもらうための見学講習を計4回実施しました。



柴田家住宅で行った子ども文化財体験事業でのひとコマ。柴田家住宅2階の座敷で、東六軒町祭囃子の出前演奏を聴く子どもたち。（写真手前）

### ③花祭の保存・伝承による地域活性化事業

北設楽郡3町村15地区で行われている「花祭」の文化的・歴史的意義を再認識するとともに、継承を起点とした地域振興を図ることを目的としています。

#### ① 記録作成事業

当日の神事、舞のみならず、練習から準備を含めた花祭の全ての記録映像を残します。また、古文書等をデジタル画像で残しリスト化します。記録をデジタルで残すことによりデジタルアーカイブの構築とその運用を目指します。

#### ② 継承事業

花祭のこれからの継承者である地元の青少年とともに、花祭の歴史と文化的意義に対する理解を深めるとともに、これからの時代に応じた効果的な継承



策を探求します。地元住民が自らの伝統文化の価値を再認識することで、保存継承に対する機運の醸成につながることを期待しています。

### ③ 普及啓発事業

シンポジウムを開催し、都市住民と花祭の継承にかかる問題意識を共有し、そこから人的・物的交流を起点にした地域振興を実現する方策を探求します。



花祭の準備から片付けに至るまでを記録に残す。

### ④ リニモ沿線ミュージアムウィーク

リニモ（東部丘陵線）沿線は、2005年の愛知万博会場であった愛・地球博記念公園を中心に、美術館や博物館、資料館、大学、史跡公園などが集中した一大文化ゾーンとなっています。

しかし、この地域の文化施設利用状況は、愛知万博以後は減少傾向にあり、文化ゾーンとしての認知度や活用度はまだ充分とは言えない状況でした。

本事業は、こうした現状を打開するために、博物館・美術館施設を中心としたこの地域の各文化施設が連携して平成24年10月13日（土）から11月4日（日）にかけて「リニモ沿線ミュージアムウィーク」を開催し、共同イベントを開催するとともに、この期間内に各施設が魅力ある展覧会や各種イベントを集中させて来訪者を誘致することにより、多くの人々にリニモ沿線文化ゾーンの魅力を知ってもらい、この地域全体の活性化と観光の振興を図っています。



イベント名：「みんなで歩いて・巡って新発見！スルーガイドウォーク」  
リニモ沿線6施設を紹介できるボランティアを養成し、愛知県立芸術大学講師や陶磁資料館学芸員とともにガイドを行うスルーガイドツアーを実施した。

### ⑤ 愛知県鑑賞学習普及事業「子どもたち・教員・学生・学芸員を結ぶ～愛知県美術館鑑賞プログラムを通して」

愛知県美術館は、学校教員等と鑑賞教育について研究する会を主宰して、児童・生徒のための鑑賞法や鑑賞補助ツールなどの研究、鑑賞会やワークショップ、鑑賞ガイド作成などを共同で実施してきました。

これら活動内容は、ウェブサイトや研究会で広く公開して他の教員とも情報を共有することにより、学校での鑑賞学習に活かされています。また、活動を通して、子どもと美術の仲介者となる教員や教員志望の学生を、ファシリテーター（鑑賞指導者）として育成しています。

本事業は、これら活動で得られた研究成果を県内小中学校を中心に普及し、多くの子どもたちに美術を楽しんでもらうことを広めるために、次の三つの目的のもと事業を進めました。

1. 学校関係者への鑑賞教育の啓発と普及
2. 教員・学生を対象とした鑑賞教育に関わる人材育成
3. 鑑賞法と鑑賞学習補助ツールの普及

具体的には、鑑賞法の立案や鑑賞補助ツールの試作を行い、鑑賞プログラム（夏休み子ども鑑賞会）を実施しました。

最終的に完成した鑑賞学習補助ツールは、県内小中学校に配布し、また、貸出し用の素材ボックス（材質見本）を作成しました。これら鑑賞学習補助ツールを用いた使用法の研修会を、県内の教員向けに実施しました。

ツールの作成と鑑賞プログラムの実施を通じて、鑑賞学習の教育的意義とツールの使用法の普及を図ると同時に、愛知県美術館と共に鑑賞教育について研究を重ねている教員や学生が、各地域で鑑賞学習を推進する主導的な役割を果たす人材となることも目指しています。

本事業を通じて、文化芸術の指導を行う教員等の資



「愛知県美術館鑑賞学習補助ツール『あいバック』アートカード、あいバックガイド、鑑賞学習CD-ROM」

質の向上を目指し、美術館・学校教員・学生の連携を促進し、地域のネットワークを強化することを意図しています。

#### ⑥朝日遺跡再整理活用事業

##### ○出土品の再整理

朝日遺跡出土考古資料のデータベースを整え、保管場所等の管理を容易にすることにより、資料の有効活用を図りました。

##### ○解説書の作成

朝日遺跡の歴史的な意義や魅力を知る一助となる朝日遺跡の発掘調査成果をまとめた解説書（A4版64頁）を作成しました。

### 5 計画の実施の効果

愛知県文化財活性化事業においては、観光資源を活用し地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた、地域社会を実現することを目的とし、各事業を実施してきました。

平成23年度には、リニモ沿線ミュージアムウィーク等のイベントを開催しリニモを産業観光資源として利活用していくことにより、リニモ沿線施設利用者数は平成23年度においては、前年度比111.52%となり愛知県内外より幅広い年齢層の方の参加をいただきました。

また、歴史的建造物やまち並み保存等に向けた取り組みとしては、建築士を対象としたあいちヘリテージマネージャー養成講座を実施し、地域の中で未だ知られることの無い文化財建造物の発見及び既指定・未指定等の文化財建造物の保存と活用によりまちづくりに活かす能力を持った人材の育成につながり、保存に関する専門知識や技術を向上させることができました。

さらに、国登録有形文化財建造物の所有者を対象として保存・活用講座を実施し、各所有者が所有する建造物の社会的価値を再認識することにより保存・活用に向けた意識改革や取り組みの促進につながりました。加えて観光ボランティアガイド連携プロジェクトを実施したことにより、地域の文化遺産を訪問する機会が増え文化遺産への理解・関心が高まりました。

また地域の伝統芸能に子どもたちが身近に触れる機会を設けることにより地域の教育機関と連携し地域の子どもや青少年が文化遺産を訪問・体験する機会が増えました。

### 6 今後の予定

平成24・25年度には、現在の事業の内容に加え教育機関や、ボーイスカウト、地域の観光ボランティアガイドなど様々なコミュニティとの連携を深め幅広い年齢層の方に文化財に関わり馴染んでいただき、その存在を誇りに思い将来の文化財に対する理解者を増やし、またこれからの時代に応じた効果的な継承策を探求していきま

す。

また、県民の方が回ってみたくなる仕掛けを織り込んだ観光回遊IT事業やリニモ沿線ミュージアムウィークなど、より積極的に観光事業に結びつけるための取り組みを実施し、地域の魅力を地域の人々が再発見・再発掘し、地域から発信することにより県内外を問わずより多くの方に地域の文化遺産に関心・興味を持ち身近に感じていただけるよう事業を展開していきます。



# 「理想郷プラン」にもとづく文化遺産の活用・伝承実施計画

(平成23年7月～平成26年2月)

## 1 計画の概要・実施体制

・地域活性化事業については  
市内、南西部に位置する錦生（にしきお）地区に残る有形文化財や伝統芸能を活用し、地域コミュニティの再認識と、新たに体験プログラム等を作成し、地域の新たな魅力づくりを行います。

実施は、地域での活動実績のある特定非営利法人赤目の里山を育てる会が行います。

・継承事業については

市内の子どもたちを対象とした伝統芸能の体験教室を開催し、「能楽のふるさと名張」「観阿弥創座の地名張」のイメージを広報するとともに、伝統芸能の振興を図ります。

実施は、市内4団体が行います。

・普及啓発事業については

名張のイメージアップを図るとともに、地域の能楽遺産の情報発信を行うため、講演会を実施します。実行委員会で行います。

## 2 補助事業名

・名張の伝統芸能等の活用・伝承事業

## 3 補助事業者名

・名張市伝統文化活性化実行委員会

## 4 計画に基づく補助事業の目的・内容

### ①地域活性化事業

錦生地内の活用可能な文化遺産を掘り起こし、地域活性化に資するため体験プログラムを開発するとともに、プログラムの内容を検証するため、ミニ・モニターツアーの試行を行いました。



体験秋葉山登山

3回の検討委員会を開催し、それぞれ体験プログラムの内容検討や、実施に係る資料収集、モニターツアー実施後のアンケート等の検証作業を行いました。

モニターツアーは、平成24年1月14日から1泊2日



環境学習木質ベレット

の工程で実施し、体力や知的関心が高い20代の若者18名が参加しました。地域内の文化遺産の見学や歴史講座の聴講、自然林が残る地域特性に基づく環境講座の聴講を受けました。文化遺産の見学では、伊賀忍者の元締めであった百地三太夫屋敷の見学など、地域の方々を講師とした取り組みを行いました。また、高齢



地域の文化資源百地家見学

化のため伝統芸能である獅子舞が途絶えてしまった地区の獅子舞を復活するために、他の地区より獅子舞を招聘し、地区の鎮守である神社の祭礼において披露しました。獅子舞は、モニターツアー参加者にも体験していただくとともに、神社の参拝者にも見ていただきました。



獅子舞体験



獅子舞復活

この事業により、獅子舞を復活することによる地域コミュニティの再生と、外部からの訪問者に対するもてなしの役割を果たすことができました。

### ②継承事業

市内で伝統芸能を学ぶ4団体が、それぞれ体験教室を開催しました。2団体については、かねてからの念願であった装束を揃えることができ、公益財団の助成による合同発表会に臨むことができました。

### ③普及啓発事業

市内に残る能楽関係の文化遺産を巡って、梅原猛先生をお迎えして市内唯一の文化ホールである、アドバンスコープADSホールにて講演会と学習会を開催しました。

名張市は、能楽の大成者観阿弥が初めて一座の旗揚げをした故事に因み「能楽のふるさとづくり」を進めており、午前中はバスによるエクスカーションを、梅原先生の講演の前には、当実行委員会会長であり能楽研究家でもある尾本頼彦より能楽史のレクチャーと、能楽の体験教室の子どもたちによる演技が披露されました。観客は450名の参加を得ることができました。

## 5 計画の実施の効果

### ①地域活性化事業

○伝統芸能の復興による、地域コミュニティ活動の活性化と観光振興

- ・獅子神楽や地域の歴史遺産、文化財等、これまで未活用であった文化遺産を活用した観光振興や地域コミュニティの活性化を目的とした体感プログラムを複数開発し、一定の評価を得ることができました。
- ・各プログラムの開発過程を通じて、錦生地域の文化遺産に関する資料整理、ガイドによる解説内容を記録したプログラムシートの記録・蓄積が得られました。今後、この資料を活用し、地域のガイド希望者を募って総合的な文化遺産ツーリズムの開催につなげ、人材育成を行うなど、観光振興・地域活性化効果の訴求への筋道をつけることができました。

### ②継承事業

体験教室は、それぞれが地域のマスメディアである

ケーブルテレビ等で取り上げられるとともに、合同発表会を通じて、市内で伝統芸能を学ぶ子どもたちが切磋琢磨するとともに、お互いに励んでいく原動力になりました。

### ③普及啓発事業

○「観阿弥創座の地・名張」の能楽に関する普及啓発、情報発信

・哲学者で、能楽の研究にも実績がある梅原猛氏を招聘、また、能楽師の藤井完治氏（シテ）、大倉源次郎氏（鼓）を招いての能楽講演と実演により、「名張と能楽」をテーマとするシンポジウムを開催したことにより、以下の効果を得ることができました。

①梅原氏の力強い講演等による「観阿弥創座の地・名張」の再確認と、市民（参加者450人）への普及啓発ができました。

②藤井完治師、大倉源次郎師を迎えた能楽の世界の学習機会の提供ができました。

## 6 今後の予定

24年度については、23年度事業を引き継ぎ、体験プログラムの本格的な実施と、更なる専門家による講座の開設など、地域文化財を地域組織や観光施策と連携して、さらに活用、推進して参ります。

名張市では、市内15地区にそれぞれ地域づくり組織が作られ、自分たちの地域は自分たちで創っていくスタンスで活動しております。その地域づくり組織と24年度はさらに深く連携し、地域住民にとっても効果が見えるように取り組んでいきたいと考えています。

体験教室についても、発表の場を多数設定し、学ぶすべての子どもたちが主役として発表できるように、取り組んでいきます。



地元講師による歴史講座



大学教官による環境学習